

令和8年度

施政方針

まちづくりの基本的考え方

令和8年度の予算編成に係るまちづくりの基本的な考え方として、地方自治体を取り巻く環境や国・県の政策動向を捉えながら、令和7年度に策定した「第六次小国町総合計画」に基づき、

- 1 白い森の国を担う「人づくり」
- 2 白い森の魅力を磨く「環境づくり」
- 3 白い森を舞台とした「暮らしづくり」

の3つの指針に沿って施策を展開することとし、その具現化に向け、横断する二つの視点「地域の暮らしを守る視点」「町内外とのつながりで成長していく視点」を基軸として事業を進めることとしています。また、施策の構築にあたり、「先を見る目」、「投資のタイミング」、「町民の意見を聞くこと」という考え方で精査した上で、「社会に即応した効率的な行財政運営」として限られた財源を有効に活用して、安全・安心な暮らしを実現していくことを重視して予算編成を行いました。

白い森の国を担う

「人づくり」

■「白い森幸せ応援パッケージ」を創設

結婚、妊娠、出産、子育ての支援を総合的に展開するため、「白い森幸せ応援パッケージ」を創設し、結婚祝い金10万円、拡充した出産支援金として10万円、国の制度を活用した妊婦のための支援給付金10万円、出産祝い金40万円、そして小学校入学時に就学祝い金50万円のあわせて120万円を交付するとともに、第二子以降も同様に給付します。また、出会いの場の創出と結婚に向けた相談体制の充実、マッチングサイト登録料の支援などの婚活支援にも取り組みます。

■より子育てしやすい環境の創出

前年度より実施している0歳から5歳児までの保育料の完全無償化及び母子健康手帳

と子育て支援機能を兼ね備えたスマートフォンアプリ「おぐにこ」の活用による、子どもの健康管理や各種予防接種の調整などを継続し、利便性の向上に努めるとともに、健康管理センターを利用した休日開放の「あそびの広場」については、これまでの毎月一回を二回に拡大することとし、子どもの遊び場と、子育て世代のさらなる交流の場の確保を図り、より子育てしやすい環境を創出します。



▲健康管理センターで開催されている「なかよし広場」

■保小中高一貫教育の推進

質の高い教育環境を確保しながら児童生徒一人ひとりの力をはぐくむ「白い森おぐに保小中高一貫教育」を推進するため、学習支援員や学力充実支援員等のほか、ICT機器の専門家による支援の拡充などを進めます。また、教育相談員の配置や臨床心理士によるカウンセリングなど継続し、個々に対応した適切な支援体制を維持します。

■小学校の給食費の無償化

国が4月から全国の公立小学校で給食費を無償とする方針を明らかにしていることにあわせて、本町でも町立小学校の給食の無償化を実施します。

■「町民総がかりの教育」の推進

町立小中学校及び県立小国高等学校に設置されている各学校運営協議会と、白い森地域学校協働本部の連携による

町民総がかりの教育の展開に加え、各学校のPTAや学校パートナー、サイエンス講座などで協力いただく町内パートナーシップ企業等で構成される「白い森子ども応援隊」の活動支援を継続し、子どもたちに多様な学びの場を提供します。

■子どもの学びの環境を確保

町で運行するスクールバスを更新することとし、マイクロバス1台及びバンタイプバス2台を購入します。また、小中学生に一人1台配備して



▲給食を楽しむ小学生

いる学習用タブレット端末については、小学生用の端末を更新するほか、小国中学校の特別教室に空調設備を整備することとし、子どもたちの安心安全な学びの環境を確保します。

■小国高校魅力化の推進

山形県立小国高校では、「地域みらい留学365」及び「白い森留学」により、13人程度の留学生を受け入れる予定であるため、留学生が充実した高校生活を送ることができよう、受入環境の整備や地域活動に対して支援を行うほか、留学生の寮生活を指導、サポートするハウスマスターを配置します。また、高校魅力化コーディネーターを配置し、学校と地域が協働する仕組みづくりを推進するとともに、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームと連携しながら、全国からの生徒募集活動を展開します。

■おぐにふるさと文化館

「百石」の運営

本年度でオープンから3年目を迎えるおぐにふるさと文化館「百石」について、展示内容の充実や企画展の開催などの利用促進に取り組むとともに、貴重な民俗資料の収集・保管に努めます。

■次期総合センターのオープン

令和6年度から建設を進めている次期総合センターについては、本年度オープンを迎えるにあたり、竣工式やオープン記念行事を実施します。また、次期総合センターの開館後は、現在のおぐに開発総合センターを解体することとなるため、解体工事設計を行います。さらに、その跡地及び町民プール、町民広場などを含めた周辺一帯については「おぐに開発総合センター等跡地利用整備計画」に基づき、有効な跡地利用に向け準備を進めます。

白い森の魅力を磨く「環境づくり」

■災害などへの備え

円滑な消防団活動を確保するため、小型動力消防ポンプ付積載車を1台配備します。また、避難所における飲料水や非常食、紙おむつなどの備蓄品の計画的な更新配備を進めます。

■ハザードマップの改定

昨年県が公表した、中小河川の洪水浸水想定区域及び、本年度中に予定されている気象情報の改正等を反映するため、令和3年度に作成したハザードマップを改定します。

■有害鳥獣被害対策

「有害鳥獣被害対策実施隊」の有害鳥獣捕獲にかかる活動謝礼を2千2百円から8千円に拡充するとともに、緊急銃猟の際に必要な備品購入を行うほか、狩猟免許取得に要す

■特定空き家の解体を助成

空き家は、地域の安全、景観、衛生などの観点から、対応が喫緊の課題となっているため、周辺住宅等へ影響を及ぼす特定空き家の解体処分に

費用の一部を助成します。また、ツキノワグマなどの出没要因となっている果樹の伐採や電気柵の設置を支援し、町民の安全確保と農作物被害の防止に努めます。



▲町内に設置したカメラで目撃されたツキノワグマ

ついて、一戸あたり50万円を上限に助成します。

■町道等の整備

西田沢頭線の整備を継続するほか、前年度から実施している沼沢地内の町道川下明沢線の道路拡幅に向けた資料の作成や関係機関との協議を進めます。

■冬季間の安全安心な生活環境の確保

また新たに、町道館貝少線の道路及び側溝の改良を行うとともに、町道橋の栄町地内の滝橋ほか5橋の補修工事と、綱木箱口地内の落合橋など4橋の補修設計を進めます。

■上下水道および工業用水の維持管理

上下水道事業及び簡易水道事業、工業用水道事業では、設備、機器等の的確な更新による長寿命化や適正な料金体系を確立し、持続可能かつ安定的な事業の推進を図ります。また、上水道供給の先端区域となっている町原地区、あけぼの地区等に対して、安定的な給水を確保するため、隣接する大滝簡易水道からの緊急連絡管路を接続する工事を行います。

■公共交通の運行

町営バス1台を更新すると



▲ロータリーを使った除排雪作業の様子

ともに、町営バス3路線、デマンドタクシー4路線の運行を確保し、利用実態と利用者のニーズに合わせたダイヤ編成に努めるとともに、公共ライドシェアなど多様なニーズに対応した地域公共交通のあり方について検討します。

■買い物支援の推進

スーパーの休業など、町内の商業環境は大変厳しい状況となっていることから、この対策として、小国町買い物支援事業運営グループによる、白い森ショッピングセンターアスモでの食品販売を支援します。また、町商工会が実施するキャッシュレス決済による町内の消費拡大の取り組みに対して支援します。

■叶水地区のほ場整備に向けて

現在、叶水地区に整備されている圃場は、整備から50年以上経過し、他の地域

と比較して収穫量が減少していることなどから、新たなほ場整備に向けた測量調査等を実施します。

■町内農業を支援

地域が共同で行う農地や農業用施設の維持管理と、農村環境の安全、災害時における復旧活動などを支えるため、多面的機能支払事業を継続するとともに、中山間地域等直接支払制度の活用により、生産条件が不利な傾斜地等での農業生産活動を支援します。

■DXの取り組み

住民票や印鑑登録証明書、税証明などの証明書をコンビニエンスストア等で発行可能となる環境を整備します。また、公式LINEを活用した施設予約システムを次期総合センターに導入し、住民の利便性の向上を図ります。

白い森を舞台とした「暮らしづくり」

■地域医療の確保

町民の命と健康を守る皆である町立病院は、昨年度介護老人保健施設温身の郷の入所機能を町立病院介護医療院に移管し、経営の効率化を図りながら地域医療の確保に努めました。本年度は、さらに機能的かつ効果的な運営や、持続可能な医療・サービス提供のあり方について検討を行います。

■人工透析患者を支援

人工透析に係る送迎事業を継続し、町外に通院している透析患者の身体的、経済的な負担軽減を図ることにより、安心して通院できる環境を確保するとともに、送迎事業を利用されないかたへ交通費を助成します。

■移動が困難なかたへの支援

障がいのあるかたや、要介護高齢者などの移動が困難なかたに対し、本年度より福祉タクシー利用助成券を約4倍に増やし、通院や生きがいづくりを支援します。

■予防接種受診の支援拡充

乳幼児及び学童への定期予防接種では、新たに加わった「RSウイルスワクチン」の接種をはじめ、中学生までのインフルエンザ予防接種のほ



▲昨年10月より介護医療院機能を組み入れた町立病院

か、高齢者の新型コロナウイルスやインフルエンザ、肺炎球菌に加え、带状疱疹などの予防接種を支援します。

■がん患者を支援

がん患者が安心して生活できるよう、医療用ウィッグや乳房補整具の購入費、山形大学医学部附属病院における公的保険の適用とされない重粒子線治療の受診を支援します。

■白い森まるごとブランド

構想の推進

デジタル技術を活用した観光コンテンツの整備や、本町の人々や暮らしの様子を短い動画等にまとめ、デジタルコンテンツ化を進めるほか、首都圏等でファンミーティングを行うなど、関係人口の創出に取り組めます。また、ふるさと納税返礼品の充実に努め、町内民間事業者が実施する特産

品の改良や新商品の開発、販路開拓等の取り組みを支援します。

■観光資源の保全と活用

重要な観光資源である飯豊温泉を安定的に活用するため、土砂崩壊により損傷した引湯管や合流槽等の更

新工事を行います。また、町民花火大会を含めた夏まつりや、豊かな旬の素材を活用した多彩なイベントの開催を支援するほ



▲賑わいをみせる白い森イベント「春まつり」

か、交流人口のさらなる拡大と観光交流の発展を目指すため、構成市町が一体となった観光情報の発信や、インバウンドなど新たな旅行需要の開拓に取り組む事業に参画するとともに、地域総合商社や観光協会などと連携し、海外旅行会社などを対象とした体験ツアーを行い、インバウンド集客を強化します。

■マルチワークの活性化

マルチワーカーの派遣に取り組む「おぐにマルチワーク事業協同組合」に対し、国の制度に基づき支援し、町の労働力の確保及び多様な働き方の推進を行います。

■移住施策のさらなる促進

首都圏等で開催される移住イベントへの出展や、パンフレット、ホームページなどにより移住希望者へPRを積極的にを行うとともに、SNSを



▲都内で開催された移住フェアへの出展の様子

活用した移住者による町の魅力の発信、移住を検討しているかたと地域を結びマッチングサイトの運営などを実施し、移住促進に関わる情報発信の強化に努めるほか、移住者が居住するための空き家の改修にかかる費用を支援します。また、不足している福祉人財の確保を図るため、本町への転入者で、保育士または介護士として就職し、住宅を購入、賃借したかたに対して、奨励金を交付します。

社会に即応した効率的な行財政運営

■計画に基づいた運営推進

この度策定した、第六次小国町総合計画や第三期地域創生総合戦略、過疎地域持続的発展計画で示したそれぞれの施策を、一体的に進行管理し、計画的、総合的に推進します。

■自治体DXのさらなる活用

職員の出退勤を含めた勤怠状況を管理するシステムの本格運用や、簡易的にパソコン等のアプリケーションを作成・運用できるサービスを活用し、行政事務の効率化を図ります。

■ふるさと納税の活用

本町を応援する多様なかたの思いが込められたふるさと納税による資金を、地域活性化に資する事業に活用するため、ふるさと納税

を原資とする「白い森ふるさと応援基金」を積み増します。また、企業版ふるさと納税促進に向けた周知活動やクラウドファンディングなどを活用し、さらなる収入確保に取り組みます。

■職員の人財育成と民間人財の活用

職員の人財育成として、一般財団法人地域活性化センターに1人、また全国町村会主催の地域農政未来塾に研修生を派遣します。このほか、民間の知識や経験などを生かし、「白い森まるごとブランド構想」を推進するため、国の地方創生人材支援制度及び地域活性化起業人制度を活用した人財として、昨年度に引き続き、民間企業から1人を受け入れます。

令和8年度予算

一般会計予算 66億円

(昨年度から21億8,000万円減額)

新年度予算概要

令和8年度予算が、小国町議会3月定例会で可決されました。一般会計予算は66億円。前年度より24.8%、21億8,000万円の減額となりました。一般会計と特別会計、企業会計を合わせた町予算の総額は、119億2,215万6千円。昨年度に比べ17億2,967万7千円(12.7%)の減額となりました。

歳入では、町税は町内中核企業の業績が安定していること等の要因により、若干の固定資産税の増額を見込んでおり、前年度比0.8%増の12億4,275万2千円となりました。次期総合センター建設事業費の計上が終了することなどから、総務費が前年度比65.0%減の11億4,547万5千円となりました。

※令和8年度予算については、5月1日の駐在員文書で配布される「令和8年度予算のあらまし」でも詳しく紹介します。是非、ご覧ください。

※施政方針の全文は町ホームページにて公開しております。